



# 媒介感染症に

# 注意



マダニの活動が盛んな春から秋にかけては咬まれる危険性が高まります。ウイルスや細菌を持つマダニに咬まれると病気を発症することがあります。

## 北海道内で過去に患者が確認されているダニが媒介する主な感染症

病名	潜伏期間	主な感染経路と症状	治療薬
ライム病	12~15日程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■細菌を保有したマダニに咬まれることによって感染する</li> <li>■発熱(微熱であることが多い)、倦怠感、慢性遊走性紅斑、まれに心筋炎・髄膜炎</li> </ul>	テトラサイクリン系の抗菌剤
回帰熱	7~10日程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■細菌を保有したマダニやシラミ(国内ではシラミによる発生はない)に咬まれることによって感染する</li> <li>■発熱(39度以上)、筋肉痛、関節痛、倦怠感等</li> </ul>	テトラサイクリン系の抗菌剤
ダニ媒介脳炎	7~14日程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ウイルスをもつマダニに咬まれることによって感染する</li> <li>■発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、けいれん、髄膜炎、脳炎等</li> </ul>	-

- ・上表の3疾患は、感染症法上の四類感染症(ヒトからヒトへの感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症)に該当し、インフルエンザのように容易にヒトからヒトに感染して広がるものではなく、水や空気などを介して伝染することはありません。
- ・ダニ媒介脳炎は、ウイルスが混入した生乳を飲んで感染した例がヨーロッパで知られていますが、ウイルスは72°C10秒で死滅するため、殺菌処理された市販の牛乳から感染することはありません。

## マダニとは

マダニ(食品等に発生する「コナダニ」やじゅうたんや寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など住宅内に生息するダニとは種類が異なる)は、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニで、ダニ媒介感染症の原因となる病原体を保有していることがあり、ヒトはマダニに咬まれることでこれらの感染症を発症することがあります。



## かまれないために

草むらや、やぶなど、マダニが多く生息する場所に入る場合には、肌の露出を少なくすることが大切です。

虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があると言われています。また、屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認してください。

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部(髪の毛の中)などがポイントです。

## かまれた時は



### 無理にとらない

マダニの一部が皮膚に残って化膿したり、体液を逆流させるおそれがあります。慌てず受診しましょう。

### 医療機関で処置を

皮膚科で処置(マダニの除去・洗浄)をしてもらいましょう。

- ◆いつ
- ◆どこでかまれたか
- ◆草むらや山に入ったかを医師に伝えましょう。

### 体調に注意

数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が見られた時は診察を受けてください。

◆ダニに咬まれた内容等について必ず医師に伝えましょう

服についたダニは  
ガムテープで取る  
のも効果的



旭川市保健所

健康推進課

25-9848